九州市で開催された世界体操・新体操選手権などでの

水俣病問題と向き合い続けた作家の石牟礼道子さん

さんがパーキンソン病が悪化する中で交わされた。環

森川さん（090・4487・9114）へ。

「窃盗症」で酌量減軽

万引き常習 懲役1年8月

地裁判決

万引きを繰り返したとして、常習累犯窃盗罪に問われた福岡市の元派遣社員小林真紀被告(44)に対する判決が17日、福岡地裁であった。板東恵里裁判官は、被告が「窃盗症」の診断を受けていたことを踏まえ、「自己の問題性と向き合い、更生の決意を新たにしている」として酌量減軽し、法定刑の下限（懲役3年）を下回る懲役1年8月（求刑・懲役3年）の判決を言い渡した。

判決によると、被告は9月30日、仕事帰りにスーパーに立ち寄り、食料品24点（計約6200円相当）をバッグに入れて盗んだ。

公判で弁護側は、被告が窃盗の衝動を抑えられない窃盗症と診断されたと主張。板東裁判官は判決で「窃盗の常習性、規範意識の鈍麻は顕著」と指摘する一方、「（被告の）夫が窃盗症治療の病院を探して通院させるなど、家族として支えようとしている」と酌量減軽の理由を述べた。

判決後、板東裁判官は「今度こそ更生し、普通の生活を手に入れてほしい」と説諭した。

お金や物 なくなることへ恐怖

「急に万引きしたくなった」「（万引きを）やめられていたから、これからも大丈夫と思った」。小林被告は公判などで犯行をこう振り返った。

検察側の冒頭陳述などによると、被告は大学卒業後、会社員になり、10年以上前から万引きに手を染めた。窃盗症、摂食障害と診断されたことがあり、窃盗罪で服役し、2018年1月に仮釈放され、夫と出会った。

生活にゆとりはあり、今回の犯行時には3万円ほどを所持していた。

被告の窃盗症を知らなかった夫は証人として出廷し、「犯罪とリンクしない彼女がいる」と困惑。一方、「一日中お菓子を食べ、私より食事が多かった。予備の予備を買う癖があり、在庫が異常だった」とも証言した。

窃盗症に詳しいクレプトマニア医学研究所所長の福井裕輝医師によると、窃盗症の背景には「お金や物がなくなることへの恐怖」がある。物を捨てられない「ためこみ症」や摂食障害を併発することが多いという。

再発防止策としては、買い物の同行などが有効という。福井医師は「速やかに専門機関に相談し、周囲が精神疾患と理解した上で継続的に支える必要がある」と話している。

県内では、県精神保健福祉センター（092・582・7500）などが相談窓口となっている。

遠賀郡	1
鞍手郡	0
嘉穂郡	0
朝倉郡	0
三井郡	0
三潴郡	0
八女郡	0
田川郡	0
京都郡	0
築上郡	0
県外	1
調査中	0
その他	0
合計	6

に基づく。居住地別）

警察官（右）からさすまたの使い方を学ぶ女性乗務員

さん
すま
を取
ない」

◆少年院職員を懲戒処分

福岡少年院は17日、SNSで知り合った男子高校生とみだらな行為をし、県青少年健全育成条例違反（淫行）などで福岡簡

あすのこよみ

19日（旧暦11月16日）友引

月齢 14.8

（大潮）

【福岡市】

日出	7.17
日入	17.13
月出	17.08
月入	7.15

満潮　干潮